

【一】 次の各問に答えなさい。

問一 次の各文の傍線部の漢字は読み方をひらがなで答え、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- ① 余暇を楽しむ。 ② 由緒正しい家柄。
- ③ 役所に申請する。 ④ 潤いのある生活を送る。
- ⑤ 心が弾む。 ⑥ 海岸をオウフクする。
- ⑦ ソッセンして仕事に取り組む。 ⑧ 日本クッシの強打者だ。
- ⑨ 映画をセイサクする。 ⑩ 病気がカイホウに向かう。
- ⑪ 新入生をカンユウする。 ⑫ 弟子に仕事をマカせる。
- ⑬ アザやかな色合い。 ⑭ 虫取り用のアミ。

問二 次の①～③の言葉と最も関係の深い言葉を選択肢ア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| ① 足を洗う | ア 更生 | イ 再起 | ウ 出発 | エ 整理 |
| ② 鼻にかける | ア 失望 | イ 満足 | ウ 刺激 | エ 自慢 |
| ③ 腰が低い | ア 謙虚 | イ 誠実 | ウ 慎重 | エ 小心 |

問三 次の①～③のような様子を言い表す言葉として最も適切なものを後の選択肢ア～クからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 新しく来たヘアメイク担当者は、とてもセンスの良い髪型にしてくれるともっぱらの評判だが、本人はいつも髪に寝ぐせをつけたまま出勤してくる。
 - ② うちの父は高校時代は野球部で四番を打っていたらしいが、今はすっかり運動不足でお腹の出たおじさんだ。でも、先日草野球の試合で特大の逆転ホームランを打った。
 - ③ クイズ番組に出て見事に勝ちぬき、賞品として高級車を手に入れたのはいいが、実は私は運転免許を持っていない。
- | | | |
|--------------|---------|--------------|
| ア 好きこそ物の上手なれ | イ 腐っても鯛 | ウ 一寸の虫にも五分の魂 |
| エ 糠に釘 | オ 医者不養生 | カ 弘法にも筆の誤り |
| キ 鳶が鷹を生む | ク 猫に小判 | |

【二】 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

生物にとって、他の生物の利用や共生は、生存を支える必要条件である。一方で、天敵や競争者との関わりは、大きな悩みの種である。ヒトも含めて、生物は例外なく、他の生物との命のやりとりのなかで、その関係に苦悩しながら、自らの生き方を進化させてきた。ヒトと野生動物との関わりは、ヒトが選んだ生業によって大きく変化してきた。たとえば、農耕や畜産が今日ほど発達していなかったころ、日本に暮らすヒトにとって、シカは重要な食料源であり、生活必需品の材料であった。 A

a、農耕が発展するにしがたい、貴重な資源であるシカも、農作物を荒らす害獣という側面を帯びる。生類を憐み、狩猟をやめ、農耕に頼れば頼るほど、シカの価値よりも、害獣としての側面が強調されるようになる。中世以降には、大規模な野生動物の駆除が行われた記録も見られる。 B

今日の日本では、シカの資源価値はあまり認められず、農林業被害の対策としての駆除と、自然保護思想の対立が争点になってしまっている。もともとシカは、気候条件や生息状況によって、増加と減少を繰り返す。多いときは捕獲して減らし、少ないときは捕獲を制限し保護しようということになる。

こんなふうにシカを管理するというと、自然を管理しようなんて人間の思いがりだ、と考える向きもあるかもしれない。しかし、どんな生き物でも、自らに関わる他の生き物との熾烈な関係調整の戦いの中で生きている。 C

たとえば、アリとアブラムシの関係を見てみよう。アリはアブラムシの出す甘露^{*1}を利用する。しかし、アブラムシも、個体数の増減が激しい生物なので、アリにとって余るときと足りないときが頻繁に繰り返される。甘露が足りない困るが、アブラムシが多いと植物の傷みは早いし、余った甘露にカビがはびこる。 b、アリは、余ったアブラムシは殺して食べる。アブラムシは直接食べてもよい餌なのだ。

ところが驚いたことには、アリたちは、殺すアブラムシの数をうまく調節して、アブラムシを全滅はさせない。いったい、どのように調節をしているのだろうか？ たとえばヒトなら、現存のアブラムシの数を数え、それから自分たちに必要なアブラムシの数を引いて、余っているアブラムシの数を計算する。そして、誰がどれだけ殺すかを打ち合わせて、適当な数だけ殺すだろう。しかし、アリに、数を数えたり、引き算をしたり、数を打ち合わせ

る能力があるだろうか？

アリたちは、意外に単純な方法で、アブラムシの個体数調節をしている。まずアリは、仲間が甘露を採集したアブラムシと、そうでないアブラムシを見分けることができる。おそらく、アリがアブラムシから甘露をとるときに、何らかのマークがつくのである。そして、そのマークがついているアブラムシは殺さないが、ついていないアブラムシは殺してもいいという単純なルールで、殺すアブラムシを決めている。

実際に、このルールさえ徹底していれば、うまくいく。たとえば、アブラムシが多く、甘露が余っているときは、アブラムシが甘露を出しても、なかなかアリに採集してもらえない。採集したマークがつかないから、殺されるアブラムシが増える。

逆に、アブラムシが少なく甘露が不足してくると、アブラムシが甘露を出せば、待ち構えているアリにすぐに採集される。ほとんどのアブラムシにマークがつくから、ルールが守られればアブラムシが殺されることはほとんどなく、アブラムシが全滅することはない。

シカとヒトの関係に立ち返って、はたしてヒトはシカに対する狩猟行為をうまく管理できているだろうか？ 現在は多くの農家や林家がシカによる被害に頭を痛めている。一方で、多くのヒトがシカをむやみに殺すのはよくないとも思っている。

c

、もっ

たいないことに、シカを資源として活用することはあまり重視されていない。ヒトは現状が正確にわかり、方針が決まれば、引き算や打ち合わせはできるはずだが、いまだに現状把握は正確にできず、意思一致にも手こずっている。

① 機械的な反応を繰り返すアリとは違い、ヒトは多様な価値観と思考能力を持ち、広い範囲を見通そうとする。それはヒトの大切な優れた素質でもあるが、個人がそれぞれ先を讀んで、自分の利害を計算するものだから、合意形成やルールづくりは、かえって困難になるのだ。D

アリのアブラムシ管理も完璧ではないが、それでもヒトのシカ管理と比べるとスマートに見える。アリはどのようにしてアブラムシの管理手法を身につけたのだろうか？ 自然淘汰の過程のなかで、アブラムシを使うのなら、それをうまく保全できないアリの集団は、餌が欠乏し、他のアリとの競争に負け、淘汰される。アブラムシをより上手に使える集団が生き残ることで、アリとアブラムシとの関係は徐々に洗練されてきたと考えられる。

② ヒトについても、野生動物を含む自然資源を保全できなかった集団は滅び、それを持続

的に活用できるヒトの集団が存続するのなら、ヒトと野生動物の関係は徐々に調和のとれたものになるはずだ。しかし、いまのヒトはアリと違い、住んでいる地域の自然資源の保全に失敗しても、失敗したのと同じ手法や価値観で、別の地域の資源に手を出し、生きていく努力をする。E

自然淘汰とは、他の生物との「X」に失敗した生物の「Y」によってもたらされる。生物どうしの関係は状況に応じて変わっていく。アリは、おそらく今後も、自然淘汰を受けて、他の生物との関係を修正していくのだろう。

しかし、ヒトは、知恵を絞って、自然淘汰を先延ばしにする。ならば、アリのように、自然淘汰によって、他の生物との関係を洗練させることは、あきらめるしかない。F

淘汰されたくないのであれば、ヒトは、人間として社会の中でどう生きるかと同様に、ヒトとして自然の中でどう生きていくかを、真摯に問い直す必要がある。

(坂田宏志「ヒトとアリの資源管理」)

注

*1 甘露……甘くておいしいつゆ。

*2 真摯に……まじめに、真剣に。

問一 問題文中の空欄a、b、cに入る言葉として最も適切なものを次の選択肢ア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二度以上用いてはいけません。)

ア そこで イ つまり ウ しかし エ また オ ならば

問二 問題文には次の一文が抜けている。この一文が入る最も適切な箇所を文中のA～Fから選び、記号で答えなさい。

一文↓

アイヌやイヌイトなど狩猟を中心に据える文化には、殺生をしつつも野生動物に対する敬意や保全への工夫が見られるのとは対照的である。

問三 問題文中の傍線部①「機械的な反応」とあるが、筆者はアリの行動をどのような点において「機械的」と表現しているのか。次の選択肢ア～エから最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仲間が甘露を採集したアブラムシを見分けることができるという生まれつき備わっている特殊な能力を用いて、それぞれのアリが作業をしている点。

イ マークのついているアブラムシとついていないものを仕分けする作業を、それぞれのアリがきわめて高い精度で、この上なく正確に実行している点。

ウ 仲間が甘露を採集したアブラムシは殺さないという集団の中で定められたルールの意義を、アリが各々理解し、自分の務めを果たそうとしている点。

エ 総合的に状況を分析することはないが、それぞれのアリがマークの有無によって殺すアブラムシを分別するという作業をただ着々とこなしている点。

問四 問題文中の傍線部②「アリとアブラムシとの関係は徐々に洗練されてきた」とあるが、アリとアブラムシとの関係が「洗練される」とは具体的にどのようなことか。「アリが」の書き出しに続く形で、問題文中の言葉を用いて三十五字以上四十五字以内で答えなさい。ただし、「アブラムシ」という言葉を必ず用いて答えなさい。

問五 問題文中の「X」に入る最も適切な四字を問題文中から抜き出して答えなさい。また、「Y」に入る最も適切な漢字一字を自分で考えて答えなさい。

問六 問題文中の傍線部③「人間として社会の中でどう生きるかと同様に、ヒトとして自然の中でどう生きていくかを、真摯に問い直す必要がある」とあるが、具体的にどうすることが必要なのか。問題文中の言葉を用いて五十五字以上六十五字以内で説明しなさい。

問七 次のア～カのうち、問題文の内容に合っているものを二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 農耕文化の発達によって生き物の殺生を避けるようになったが、作物を守る上で障害となる生き物の生命は容赦なく奪われていくという皮肉な状況が生まれている。

イ 元来人間にとって食料源であったシカが単なる害獣に変わった原因は人間の生物的变化によるものであり、人間も生存のために環境に順じて進化してきたといえる。

ウ 自分達の都合の良いように他の生物の個体数管理の計算や打ち合わせができるという能力が逆に災いし、人間は他の生物との関係作りがうまくいなくなっている。

エ 人間は自身の立場を見つめ直し、他の生物を都合の良いように操作し管理しても良いというおごりを捨て、自然界の一生物としての自覚を持って生きる必要がある。

オ 以前に比べて、現在のヒトの食料資源についての価値観が大きく変化してしまったことも、シカとヒトの関係が円滑なものになっていない原因の一つと考えられる。

カ アリのアブラムシの利用に関する決まりが厳密に守られれば問題はないが、正確に実行できない集団があるので、アブラムシの個体数が頻繁に増減することになる。

問八 次のア～エの各文は、問題文の展開と内容について説明したものである。その説明として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生き物たちに共通する生存のための必須事項について前置きした後、筆者特有の視点から人間とシカ、アリとアブラムシの関係作りについての長所・短所をそれぞれ分析し、人間に提示する形式で締めくくっている。

イ 生き物たちの他者との普遍的な関わり方について提示した後、人間とシカ、アリとアブラムシの関係を冷静に比較してその相違点を指摘した後、人間に対して問題意識を持たせる形で文章を締めくくっている。

ウ 生き物たちが常に抱き続けてきた宿命的苦悩について言及した上で、人間とシカ、アリとアブラムシの例をそれぞれ説明することで双方の共通点と相違点を指摘し、人間に対し批判的な論調で文章を締めくくっている。

エ 生き物同士の一般的な関係のあり方について定義づけた上で、人間とシカ、アリとアブラムシの関係作りに共通する点を見出し、人間を他の生き物と同様に位置付けた上で今後の指針を暗示して締めくくっている。

【三】 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

*1

冬の Kolkata (旧カルカッタ) は、灰色の雲に覆われていた。あたりには排気ガスや霧がたちこめて薄暗く、冷たい下水の臭いが漂っていた。

そんな街中に、白髪の女性が歩き回っていた。六十歳になるマラルだった。彼女は道行く人にすぎるようにまわりつき、汚れた手を合わせてこういつていた。

「毛布を買って下さい。寒くて死にそうなの」

街で彼女は布団乞食こじきと呼ばれていた。毛布を買ってもらっては、それを転売して暮らしていたためである。

私がマラルと出会ったのは四年前の冬のことだった。その頃、街の住人たちは彼女を毛嫌いしていた。彼女を見つけると、遠回りして避けたり、手で追い払うしぐさをした。中には、近づくな、と怒鳴る者もいたほどだった。

そのため、彼女は安宿街で外国人にまわりつくことが多かった。しかし旅行者もまた彼女のたくらみを察し、不快そうに顔をそむけていた。誰にとっても買い与えたものを転売されるのは不快なものだ。嫌われる原因はそこにあったのだと思う。

私は、マラルが毛布を手に入れたのを一度しか見たことがない。インド人ガイドと一緒に歩いていた時、韓国人の大学生旅行者が市場で安い毛布を買い与えていたのだ。彼女は手を合わせて、ありがとう、といった。だが、韓国人と別れると、すぐに市場にもどって同じ店で売値の八割で買い取ってもらっていた。

①「これで一週間は食べていけるわ」

②彼女はそう下品に笑った。黄ばんだ歯が所々抜け落ちていた。

数日すると、私はマラルと立ち話をする仲になった。ガイドが彼女と面識があったために挨拶あいさつをしているうちに親しくなったのである。

いつも彼女は蟹股かにまたで駆け寄ってきては、早口で話しはじめたものだった。外国人旅行者のこと、他の路上生活者との寝場所争いのこと、乱暴な警官のこと、いろんなことを楽しそうに語るのだ。

ただ、彼女には私たち以外には話し相手はいなかった。通行人や旅行者に「X」を向けられ、二日も三日もろくに食事をとれないこともあった。私はそんな姿を見るたび

に心配して、大丈夫かと尋ねた。しかし、彼女は明るく笑い飛ばし、こういったものだった。

「平気よ。私の手を触ってみて。温かいでしょ。昔、夫に『一枚しか毛布がなくても君と寝ているととても温かい』っていわれたほどのよ。私にとって温かさが元気の印なの」

夫とは十年以上一緒に路上生活をしてきたそうだった。二人で物を乞い、日雇いの仕事をしていたのだという。数年前に死別したものの、そんな夫の言葉は今も自慢になるほど大切な思い出だった。

私は彼女のそんな楽しそうな話を聞くにつれて、お互いの距離が縮んでいくのを感じていた。

そんなある日のことだった。私とガイドが市場の裏道を歩いていると、偶然路上に倒れているマラルを見つけた。下水のあふれる道端に伏せていたのである。

私たちはあわてて駆け寄った。彼女は気がつく、力なくつぶやいた。

「なんか風邪ひいちゃったみたい」

手足は枯れ枝のように細く曲がっていた。寒さと栄養失調で体調を崩したに違いなかった。私はなぜもっと早く気づかなかったのかと後悔した。

「お布団買ってくれる？」と彼女は苦笑した。

私たちは彼女をその場に寝かせ、市場へ行った。そこで食べ物と薬、それから中国製の赤い毛布を購入した。

街にもどると、彼女にそれらを渡し、数日分の生活費を握らした。毛布にくるまって休み少しでも元気になってもらいたかった。

④不意に彼女はうつむいた。泣いていた。鼻やあごからぼろぼろと涙がこぼれ落ちた。彼女が初めて見せた本心だった。

この時、私は彼女と特別な信頼関係を築けたような気がした。

その夜、私とガイドは町の外れにある広場を訪れた。夜になると、ここには町じゅうから数百人もの物乞いが集まる。マラルもまたここで寝泊りしているはずだった。私たちは見舞いがてらに様子を見にきたのである。

公園の隅っこにある草むらで、彼女は寝ていた。冷たい雑草の上で体を丸め、薄い布をかぶっていた。⑤所々破け、色落ちした灰色の毛布だった。この日買い与えた中国製の品で

はなかった。

私は一瞬眼を疑い、あたりを見回した。赤い新品の毛布はどこにも見当たらなかった。売ってしまったのだろう……体から力が抜けていった。昼間、私は彼女と親密な仲になったような気がした。涙を見た時心からそう思った。だが、結局私は毛布を買ってくれる金持ちの外国人に過ぎなかったのかもしれない。それがむしろに寂しかった。

その時、ガイドが感慨深そうな口調でこうつぶやいた。

「ずっとこの毛布をつかつているんだなあ」

「え？ どういうことですか」

「以前、何度かここに来たことがあるんだ。この毛布に彼女が旦那とくるまって寝ているのを見たことがあるんだよ」

それを聞いた時、私はマラルの夫の言葉を思い出した。

君と寝ていれば温かい……きつと夫婦はこの薄い毛布にくるまって何年も路上で過ごしてきたのだろう。風の日も、霜の降りる夜も、雨の日も、ずっと一緒に一枚の毛布で眠っていたはずだ。

どれだけ薄くても、破けていても、何にも変えがたい思い出の品である。そこには、私を感じられない温かさがあるに違いなかった。

私はため息をついた。毛布を売られたことを悲しんだ自分を恥じた。彼女は彼女なりの事情で古い毛布にくるまっているのだ。

「どうする？ 起こすか」とガイドがいった。

私は「Y」を横に振った。私の思いつきにつきあわせるのが悪かった。それよりも、ゆつくりと温かい夢を見てもらいたかった。

(石井光太「布団乞食」)

注

*1 コルカタ……インドの都市。

*2 日雇い……一日ごとに仕事で雇われること。

*3 偶然……偶然と同じ。

問一 問題文中の二重傍線部「たくらみ」と同じ品詞の単語を、波線部a「温かさ」・

b「乞い」・c「偶然」・d「細く」から一つ選び、記号で答えなさい。

問二 問題文中の「X」「Y」に入る体の一部を表す漢字一字を、慣用表現を踏まえた上でそれぞれ答えなさい。

問三 問題文中の傍線部①「彼女はそう下品に笑った」とあるが、筆者が下品と感じている理由として最も適切なものを、次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 図々しく他人にすり寄って、単にお金を手に入れることに喜びを感じ、人間らしく生きていくことの意義などについて全く関心を持っていない様子を低俗と感じているから。

イ 自分の汚らしい身なりやみにくい容貌が他者に不快感を与えていることについて全く配慮せず、周囲から排除されていることにも気付いていない様子を愚かさを感じているから。

ウ 自分の不幸な身の上を主張することで相手の善良な気持ちにつけこみ、その真心を踏みにじっておきながら全くそれについて恥じることもない様子にいやしさを感じているから。

エ 外見の汚らしさと内面的な不器用さという自分自身の本質的な欠点も改善せず、たまたま成功したことで無邪気に喜んでいる様子に人間としてのレベルの低さを感じているから。

問四 問題文中の傍線部②「そんな夫の言葉は今も自慢になるほど大切な思い出らしかった」とあるが、その理由として最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世間の冷たい風に吹かれ、貧しさや苦しさ打ちのめされながらも決して失われることのなかったマラルの心の豊かさを、夫だけは感じ取ってくれたから。

イ 厳しい寒さに苦しめられていたが、そんな環境の中でも、夫は、マラルが身をささげて凍えていた自分を温め、命を守り続けたことに感謝してくれていたから。

ウ 生活苦は二人の上に重くのしかかっていたが、そんな中でも夫は二人で一緒にいることで心が満たされ、マラルをかけがえのない存在と感じてくれたから。

エ 劣悪な環境の下で夫は亡くなったが、そんな厳しい状況でさえ力強く生きていけるマラルの心身のたくましさを夫は以前から見抜き、評価してくれていたから。

問五 問題文中の傍線部③「距離が縮んでいく」という箇所について、次の間に答えなさい。

(i) 傍線部③「距離が縮んでいく」とは、何がどのようになっていく様子をたとえた表現か。「お互いの」に続く形で、次の《 》に十字以内で考えて答えなさい。

お互いの《 十字 以内 》様子。

(ii) 逆に、筆者がマラルとの距離を遠く感じていることが最もよく読み取れる一文を、傍線部③より後の文中から探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

問六 問題文中の傍線部④「不意に彼女はうつむいた。泣いていた」とあるが、このときのマラルの心情について、彼女の普段の生き方にも触れた上で、四十字以上五十字以内で答えなさい。

問七 傍線部⑤「所々破け、色落ちした灰色の毛布」は、彼女にとってどのような意味をもったものか。最もよく言い表している部分を問題文中から探し、過不足なく抜き出して答えなさい。

問八 傍線部⑥「毛布を売られたことを悲しんだ自分を恥じた」とあるが、その理由について、自分を恥じた内容を含めて四十五字以上五十五字以内で答えなさい。

国語

解答用紙

(2010-J1)

受験番号
氏 名
得 点

問二	問一		
①	⑪	⑥	①
②	⑫	⑦	②
③	せる	⑧	③
問三	やか	⑨	④
①	⑭	⑩	⑤
②			い
③			む

問七	問六		問五	問四	問一
			X	ア リ が	a
					b
			Y		c
問八					問二
					問三

問八	問七	問六		問五	問一
				(i)	
					問二
					X
					Y
				(ii)	問三
					問四